

病害虫発生予察情報 10月予報 概要版（令和8年10月9日発表）

群馬県農業技術センター発生予察係（病害虫防除所）

★ 10月8日発表 気象の1か月予報（気象庁発表）

平均気温は高い確率70%、降水量は少ない確率40%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%です。

★ 10月の病害虫予報 注目ポイント！！

ネギ シロイチモジヨトウ ……発生量：やや多い



現在までの発生量は平年並です。

中老齢幼虫が葉の内部に食入した後は農薬の効果が低下するので、若齢期の防除適期を逃さないよう注意しましょう。

果樹類 果樹カメムシ類 ……発生量：並



現在までの発生量は平年並です。

フェロモントラップへの9月下旬の誘殺数は概ね平年並です。一方で、10月上旬以降に誘殺数の増加傾向が見られる地点があるため、引き続き注意が必要です。

野菜類・花き類 オオタバコガ ……発生量：並



現在までの発生量は平年並です。

今後、県内平坦部では発生量が増加する可能性があるため、引き続き注意が必要です。

施設果菜類 コナジラミ類 ……発生量：並



現在までの発生量は平年並です。

トマト黄化葉巻病やウリ類退緑黄化病のウイルスを伝搬します。

施設の開口部への防虫ネット設置などにより、施設内への侵入防止を徹底しましょう。

パソコンの方は、毎日、最新のトラップ誘殺数を見ることができます。

- ・ <https://www.pref.gunma.jp/page/20720.html> へアクセスする
- ・ 2段目の各種トラップ調査結果の「毎日更新 各種トラップ調査結果グラフ」をクリック

各種トラップ調査結果

最新の情報を掲載しています。

毎日更新 各種トラップ調査結果グラフ（パソコン専用）＜外部リンク＞

毎日更新 各種予察灯調査結果グラフ（パソコン専用）＜外部リンク＞

令和8年各種トラップ調査結果（10月2日更新）（PDF：356KB）

令和8年予察灯調査結果（10月2日更新）（PDF：181KB）

パソコンの方はこちらをクリック

スマートフォンの方はこちらをクリック

※スマートフォンの方は、毎週金曜日更新のトラップ調査結果をご利用ください。

※こちらのページから毎月の予報などの情報も見ることができます。

こちらの二次元コードもご利用ください。



その他の病害虫については裏面



【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	発生量	特記事項
果樹全般	ハダニ類	並	現在までの発生量は平年並。
リンゴ	斑点落葉病	並	高温多湿条件で発生しやすく、連続した雨などの短期間の気象条件で急増することがあるので注意する。
	炭疽病	並	高温多湿条件で発生しやすく、特に果実の濡れ時間が長いと感染しやすいので注意する。
	スモモヒメシクイ	並	フェロモントラップ調査による誘殺数は平年並。
	キンモンホソガ	並	フェロモントラップ調査による誘殺数はやや多いものの、現在までの発生量は平年並。
	ハマキムシ類	並	現在までの発生量は平年並。
野菜類 ・ 花き類	アブラムシ類	並	現在までの発生量は平年並。
	ハスモンヨトウ	並	現在までの発生量は平年並。 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、早期防除を徹底する。
キュウリ	べと病	並	草勢の衰えや、多湿管理下で発生量が増加するため、適切な肥培管理と湿度管理を行う。
	うどんこ病	並	多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
	褐斑病	並	高温多湿条件下で発生が急激に増加するため、適切な湿度管理を行う。
	アザミウマ類	並	ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病の原因となるため、発生に注意する。
ネギ	軟腐病	並	現在までの発生量はやや多い。高温多湿条件で発生しやすい。降雨後の予防的防除を実施する。
	さび病	並	秋が比較的低温で降雨が多いと多発する恐れがある。肥料切れにより発生が助長されるため、適正な肥培管理を行う。
	ネギアザミウマ	並	秋の乾燥条件で発生が多くなるので注意する。

詳しい予報はこちらから（病害虫発生予察情報一覧へリンク）

→ <https://www.pref.gunma.jp/page/20720.html>



こちらの二次元コードも
ご利用ください



★農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている使用方法、注意事項等を確認して適正に使用してください。

★農薬散布後は器具をよく洗浄し、前に散布した農薬が混入しないよう注意しましょう。